

「観光振興における連携に関する協定書」調印式

近畿日本ツーリスト株式会社・横浜商科大学



「イギリス・ケンブリッジでの在外研究を振り返って」
経営情報学科 教授 浮田善文

—新任教員紹介—

石井 明 教授
岩倉由貴 講師
諸上詩帆 講師

2015年4月 商学部「観光マネジメント学科」新設

—貿易・観光学科を改組—

近畿日本ツーリストと

「観光振興における連携に関する協定」締結

就職に強くなる、新カリキュラム—2015年度新カリキュラムスタート—

平成25年度 学位記授与式・入学式が執り行われました。

私のゼミ紹介 佐藤義文ゼミ「租税法の研究」

柴田 悟
横浜商科大学
学長

観光マネジメント学科（定員七〇名）新設

― 2015年度4月商学部に貿易・観光学科を改組し、新設 ―

本学は「安んじて事を託さるゝ人となれ」の建学の精神を掲げ、一九六六年に短期大学を開学し、一九六八年商学部・商学科の単科大学として再出発し、一九七四年に商学部三学科（商学科、貿易・観光学科、経営情報学科）に改組し、常に日本経済の成長を支える人材の育成に努めてきました。

経営情報学科は日本企業の動向や情報化社会を睨み、当時では珍しいと言われた電算化をはじめ新しい施設設備の導入や学習インフラを整備してきました。

また、貿易・観光学科は、当時の日本にあまり類を見ない画期的な高等教育の先駆けでもありました。

以来三〇年、さまざまな外的環境の変化が絶え間なくつづき、それらによる社会的なニーズにも応えるべく、二〇一五年度に貿易・観光学科を観光マネジメント学科に改組します。

社会ニーズの変化や観光需要の増大に 대응べく観光に特化した学科になります。従来の貿易の分野は商学科に組み込まれます。

元来、「観光」という分野を学問分野として位置付けた場合、単に社会学的要素のみならず、その他、多様な専門分野が複合的且つ密接に関係しています。そのため新学科についても観光ホスピタリティの分野をビジネスやマネジメントの面から学んでいくこととしています。



【観光マネジメント学科の人材育成像と特色】

諸説ある中、「観光」という言葉が日本において生まれた時や中世ヨーロッパ

でのグランドツアーの時代からその内容、名称、意味が大きく変化を遂げています。

いわゆる「物見遊山」的な「見物旅行」という行為を指すものから、そこからの体験、学習的側面が生まれる事や、訪れる側、受け入れる側双方で様々な国、地域や人との関わりにより、さらなる欲求を生み出す等、その多様化が進んでいます。

そのため、学科の内容では今までの旅行、航空・鉄道、ホテル等を対象とした分野の他に今後ビジネス向けの催事やイベント・インメント等新たな領域も学ぶことができるようになります。

二〇二〇年にオリンピック・パラリンピックの開催、横浜を中心とした統合リゾート計画、訪日二〇〇万人計画等国家戦略事業が予定されています。これにより海外からの観光客に加え、多くのビジネスマンが来日し、新たな領域だけでなく、従来の観光、宿泊や運輸に関しても需要が見込まれ、その需要に応えるために、次に挙げる人材育成をおこなっていきます。

- ① 観光・ホスピタリティ関連分野において事業や業務を革新し、そのイニシアティブを発揮できる人材
- ② 新たなビジネスを創造し、新規事業をプロデュースする等企業の力を持った人材
- ③ 国際交流・文化交流に関する事業や活動を企画・提案し、それらの実現に向けて動くことができる人材



- ④ 都市や地域の振興、活性化、まちづくりに関連する事業や活動を企画・開発し、それらを実現するための中心的貢献ができる人材

そして、これらの人材を社会に輩出していくために、次の3つを行います。

- i) カリキュラムの改訂
- ii) 授業運営の改善
- iii) 外部のプロ講師の招聘



【プロフェッショナルによるリアルな

マネジメントを実感する】

このように学生の学びに対し、「観光」の学術的な面を教授していくとともに、関連するプロ（人気旅館経営者、キャンピングアテンダント教官、旅館再生プランナー、スポーツイベントプランナーなど）である、第一線で活躍している方々を講師に迎え、その現場の実情、実態に対する本物のマネジメントを具体的に示します。学生たちを将来、進むべき道へと導き、さらには国際交流や文化交流、地域の活性化となる知識や能力、知恵を学生たちに提供していきます。

【近畿日本ツーリストとの 観光分野における人材育成で連携】

去る、二〇一四（平成二六）年一月二六日、本学は近畿日本ツーリスト（本社：東京都千代田区）と「観光振興における相互の連携に関する協定」を締結し柴田悟一学長と同首都圏営業本部木島雅人本部長の間でその調印が本学つるみキャンパスにて取り交わされた。

これは両者が観光分野で幅広く連携を図ることにより、観光業界の人材育成を積極的に行うことを目的としている。

現在、日本は成長戦略の一つとして「観光立国ニッポン」を掲げる中、東京オリンピック・パラリンピック開催や統合型リゾート推進法（IR法案）の国会議論等でホスピタリティ関連の人材育成が急務となっている背景もあり、同社の経験、ノウハウを活かし本学における、旅行、イベント、研修、インターンシップなどをサポートしていただき、本学学生の観光業務に関するさらなる能力育成を後押ししてもらうこととなります。

具体的な予定では、二〇一五（平成二七年）三月に箱根町で開催される「第三回温泉OIN女子フットサル大会」箱根」の運営に本学学生が携わることを予定し、さらには同年四月をめどに本学学生が企画・立案した中で選出した旅行商品の販売も計画中のことでした。



近畿日本ツーリスト

AGREEMENT

横浜商科大学

「未来へ！」 進み続ける SHODAI

NEW! 2015

ハマる、
が見つかる。

YOKOHAMA
COLLEGE
OF COMMERCE

Curriculum

【全学的に新カリキュラムを新設】

観光マネジメント学科新設を機に、「すべての学生が目標への具体的なかつ明確な進路を卒業までに導き出し、就職というゴールにたどり着ける。」

いわゆる、自己実現達成を可能とすることを目標としたカリキュラムを二〇一五年四月より施行することとなりました。

大きな柱として、次の五つにわたって構成となっています。

- ① 社会人基礎力プログラム
初年時から社会でも求められる力を養う。
- ② 学部基礎プログラム
専門分野を学ぶ前に基礎となる分野を学ぶ。
- ③ 専門プログラム
専門知識の修得と論理的思考力を養成する。
- ④ フロントティアプログラム
専門分野を職業に直結させた科目群
- ⑤ 課題研究プログラム
ゼミナールで知見を深めていきます。

とりわけ、社会人基礎力プログラムでは一年次よりアクティブラーニングを活用した協働作業やプレゼンテーション能力を育成し、英語担当クラスによる国際的なコミュニケーション能力をじっくりと磨きながら「やる気」を目覚めさせます。

また、上級学年（三年次）に設定したフロントティアプログラムでは専門分野での職種へ直結した学びとし、それぞれの職業で活躍中のプロフェッショナルを講師に招き、現場の実情、課題など生の声を聞きその問題解決について考察していきます。

（カリキュラムの詳細、構成は別途本学ホームページ

<http://www.shodai.ac.jp/departments/curriculum.html>で紹介しております。）



写真（右）英語（渡邊先生）
（左）オープンキャンパスでも
高校生に好評だった細江先生の
ACL



平成25年度 第44回学位記授与式



三月二二日、本学つるみキャンパスにおいて平成二十五年度第四回学位記授与式が行われました。

学事報告後、学位記が授与され、柴田悟一学長の式辞、大村達彌理事長の祝辞、さらに学長賞の授与が行われ、

商学部商学科一四〇名、
同貿易・観光学科五一名、
同経営情報学科六六名の合計二五七名が本学の学舎を巣立ち、社会人としての一歩を踏み出した。

また式典では本学の学生応募論文「松本武雄賞」受賞者とならんで同年度における学科別学業成績最優秀者である学術賞、及び顕著なスポーツ活動実績をあげたスポーツ賞、ならびに特別賞の表彰と授与も卒業式においておこなわれました。

なお、表彰者は下記の通り。

平成二五年度「学長賞」受賞者

学術賞（三名）
商学科
貿易・観光学科
経営情報学科



山田大和さん



大向幸花さん



相澤崇文さん

スポーツ賞（八名）
硬式野球部



岩貞祐太さん



西宮悠介さん



菊地貴太郎さん



山崎珠嗣さん



武田真一さん



中村星也さん



吉濱雅斗さん



松下貴弘さん

岩貞 祐太
（第〇回全日本大学野球選手権記念大会出場・
第三〇回全日本大学野球選手権大会出場・
第三〇回全日本大学野球選手権大会出場）

西宮 悠介
（第〇回全日本大学野球選手権記念大会出場・
東日本大震災復興支援ベースボールマッチ出場）

武田 真一
中村 星也
菊地 貴太郎
吉濱 雅斗
山崎 珠嗣
松下 貴弘
（第〇回全日本大学野球選手権記念大会出場）

特別賞（三名）
商学科
商学科
貿易・観光学科



吉田真樹さん



梅澤 徹さん



森田ひとみさん

吉田 真樹（税理士試験科目合格）
梅澤 徹（税理士試験科目合格）
森田ひとみ
（ゼミ連立と活動への貢献・OTOME記者としての活動・キャンパスイルミネーションの設置）

平成二五年度「松本武雄賞」

本学学術研究会運営委員会は、平成二五年度「松本武雄賞」について、応募論文を慎重かつ厳正に審査した結果、入賞者を決定し、「横浜商科大学学生論集」に受賞論文を掲載するとともに、平成二五年度第四回学位記授与式において表彰しました。

第一席 該当者なし
第二席 該当者なし

第三席 荒井 詩織（吉田武史ゼミ）
（論題…マテリアルフローコスト会計の動向と展望）

佳作 中村香央莉（吉田武史ゼミ）
（論題…テンプル騎士団の会計帳簿と複式簿記の関係性）

佳作 古瀬 一樹（小林三三夫ゼミ）
（論題…米国プロクター・アンド・ギャンブル社（P&G）と花王のマーケティング戦略—日台市場を事例として—）



荒井詩織さん



中村香央莉さん



古瀬一樹さん



2014年新任の教員紹介

2014年新たに加わられた専任教員の方から3名の方に自己紹介をいただきました。

会計の企業内での役割や社会的な役割を平易に解説したい。



石井 明 教授
Ishii Akira

Profile

研究分野：リース会計論、国際会計基準論

経歴：1976年 横浜国立大学大学院修士課程修了後、東京銀行、東銀リース（香港）および 東銀リサーチに2003年まで勤務。2003年より2013年まで上武大学ビジネス情報学部教授。2014年 横浜商科大学商学部教授。2006年 横浜国立大学大学院国際社会科学部研究科博士後期課程修了（経営学（博士）取得）、2014年より国際会計研究学会の理事。

主な著作論文：『グローバル財務報告』2009年、中央経済社。『会計基準のグローバル化』2009年、同文館出版（以上、監訳）。『財務諸表の分析入門』2010年、千倉書房。リース会計に関する論文多数。

私は2014年4月に着任し、会計学に関連する科目を担当しております。
私の主たる研究テーマは、リース会計および国際会計で、種々の学会や大学紀要にリース会計について論文を多数公表しております。
また私の博士請求論文は、米国のリース会計実務の変遷や基準に的を絞って論じており、特に数年前より「アメリカにおけるリース会計の生成と展開」というテーマを私のライフワークとしております。
国際会計においては、東銀時代に励んだ為替換算会計、多国籍企業会計を基礎として、最近では国際会計基準の世界的採用の動きから基準論の深化を目指しています。
私の担当する科目は、簿記、財務諸表論および会計監査論であり、したがって技術論の色彩が強い科目を教えているわけですが、学部学生には専門知識を講義する前に企業のなかの仕事や経営の実情など、インフラをまず教えることにしております。
経営戦略・戦術や企業取引の内容がおおよそ分かって、はじめて会計の機能や社会的使命が理解でき、また細かな技術や知識が身に付くものと思っております。
横浜商科大学の実学の基礎を形成するために微力ながら努力したく思います。

ペット産業研究の第一人者を目指して。



岩倉 由貴 講師
Iwakura Yuki

Profile

研究分野：マーケティング、流通

経歴：2010年3月東北大学大学院経済学研究科博士課程修了、4月より東北大学大学院経済学研究科博士研究員。2011年4月札幌大学経営学部経営学科（現：札幌大学地域共創学群人間社会学域）専任講師。2014年4月、横浜商科大学商学部経営情報学科専任講師。現在に至る。

私の研究テーマは大きく二つあります。
一つはペット産業に関する研究です。ペットは家族の一員と位置付けられているものの、多くの犬猫が殺処分されている現状があります。なぜこのような問題が発生するのか、その原因と解決策を探るため主にペットの流通を研究してきました。
現在の主たる関心は犬の譲渡の普及促進です。ペット先進国と呼ばれるドイツでは犬の入手方法として動物保護施設からの譲渡が根付いていますが、日本ではペットショップでの購入が一般的と言われており、譲渡はまだ一般的とは言えません。そこで日本で譲渡を普及させるためにはどうしたら良いか、マーケティングの観点から研究しています。
ペットを事例に研究することで飼える状況ではないのに飼（買）ったために捨てたという問題も見えてきました。これはペットに限った話ではありません。一般の商品にも当てはまることです。本来売るべきでない人に売ったために、結果として捨てたり使わないこともあります。そこで「売る」に焦点を当ててののではなく、場合によっては「販売しない」ことで消費者と企業の長期的な利益を確保する方法があるのではないかと考えています。これが二つ目の研究です。

職場の仲間や顧客の心理を理解し

対応できる人材を育成したい。



諸上 詩帆 講師
Morokami Shiho

Profile

研究分野：産業組織心理学、消費者行動論

経歴：2009年 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得退学 2014年 横浜商科大学商学部商学科専任講師。現在に至る。

主な著作論文：『日本人の心理・行動モデルと日本企業のフォロワー』（2010）（共著）白桃書房、職場における上司のパワーが従業員に与える影響の国際比較—日本と台湾における影響関係の比較—（2011）横浜大論集、「従業員のパーソナリティ傾向を中心とした個人特性が、内発的、外発的職務満足に与える影響の検討」（2012）横浜大論集

現在、社会心理学、マーケティングなどを担当しております。
主な研究分野は経済がサービス化している近年注目されているインターナルマーケティングです。
モノやサービスが溢れている現代で顧客から自社を繰り返し選んでもらうためには、顧客満足を引き出すことが最重要課題です。顧客満足を引き出すカギの一つは従業員の「おもてなし」のレベルが他社よりも高いことです。従業員がより高サービスを自ら進んで顧客に提供すれば、顧客はその従業員のみなさん企業に対し好意的なイメージを持ち、リピーターとなっていくます。
私の研究では、顧客の心をつかむ重要な役割を担う従業員のワークモチベーションを向上し企業の収益性にプラスに繋げることを目的として、組織内の人間関係を中心にその影響要因を検討しています。
これらの研究知見は私たちが日常生活で他者とよりポジティブなコミュニケーションをするための重要な示唆を与えています。それらを皆さんにお伝えすることで、他者の心理をいち早く察知し的確に対応できる力を養い、親しまれ必要とされる人材になるための一助としたいと願っております。

イギリス・ケンブリッジでの 在外研究を振り返って

浮田 善文



二〇一三年の秋から一年間のイギリスのケンブリッジ大学での在外研究を終え、無事帰国致しました。

日本から遠く離れた地ですし、日本人もそれほど多くない町なので、渡航前は不安なことばかりでしたが、振り返ってみると、本当に素晴らしい一年間でした。

私の研究についてですが、セミナーやワークショップ等に参加しながら、実験計画法と呼ばれる統計学の分野について研究を進めてきました。イギリスは統計学に関する研究が盛んで、著名な統計学者も数多く輩出しています。実験計画法の創始者であるR.A.Fisherがケンブリッジ大の卒業生であったことは、私がケンブリッジでの在外研究を希望した理由の一つでした。

五月には一度、ロンドン大学で講演をしてきたのですが、ロンドン大学にはこの分野で世界的に有名な教授が多く在籍しています。夕方から約一時間の講演で



したが、二〇名程の教授と学生が聞きに来てくれました。私の拙い英語にも関わらず、多くの質問をして下さり、また多くのアドバイスを頂けたことはとても貴重な経験でした。特に一番お会いしたかったR.M.教授は大変ご多忙にもかかわらず、私のために、午前中から夕方まで二人でディスカッションする時間を設けて下さり、本当に感謝しております。



ケンブリッジ大は図書館をはじめ、研究環境はもちろん素晴らしいのですが、私にとって一番印象に残ったことは、世界中から著名な研究者がケンブリッジに来るので、学内に居ながら、その発表を聞くことができ、また直接コンタクトをとることができることでした。

一方で、いろいろな分野の方と交流を図る場として、私の所属していたWolfson Collegeは、週二回「Formal Evening」というものを開催しておりました。これはCollegeのメンバー（教授や研究者）とその招待客が参加し、夕食をとりながらお互いの専門分野等について話したりすることで交流を図るものでした（写真を撮られることが嫌

いな方もいて、Formal Eveningでは、基本的には写真を撮らないことになっていました。Formal Eveningが始まる前に撮った写真を一枚載せておきます）。



隣の席に比較的专业の近い方が来ることもありますが、専門が全く異なる先生と話をすることもとても新鮮で楽しかったです。

この他にも、イギリスにいて感じたことはたくさんあるのですが、その中で一番大きいものは、学生及び卒業生が人脈を作る場が日本に比べてとても多く、またそのような場を大切にしているということです。大学や企業が社交場を用意し、学生はこの場で様々なマナーを学び、人脈を作っていきます。今改めて考えると、

本学でもこのような場はたくさんあると思います。ただ、私自身もそうですが、一般的に日本人はこのような場をあまりうまく活用していないように感じます。今後はこのような場をもっと大事にしていかなければと思っています。

この他にも、イギリスに来なければ分からなかったこともたくさんあり、改めて、海外に出てみることの良さを感じました。今後本学でも、多くの学生が海外の大学に留学したいと感じるようになってくれればと思っています。

最後に、このような貴重な機会をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

※浮田先生の滞在中の様子は本学ホームページ
http://www.shoda.ac.jp/gm/pdf/2013/GB_ukita20140119.pdf
にて紹介しています。

浮田善文 教授 プロフィール

商学部 経営情報学科教授
工学博士

研究分野… 知能情報処理

主たる経歴…

一九九九年 早稲田大学大学院理工学研究科

博士課程単位取得満期退学

二〇〇一年 横浜商科大学 専任講師

二〇〇四年 横浜商科大学 助教授

二〇〇一年 横浜商科大学 教授

二〇〇二年 ビッツバーク大学

ブラッドフォード校客員教授

(同一年・同四月)

二〇一三年 ケンブリッジ大学

Wolfson College Visiting Fellow

(同八月 - 翌九月)

私のゼミ紹介
—佐藤義文ゼミ—



「租税法の研究」

～税理士・公務員・教員を目指して～

佐藤義文ゼミは、租税法をテーマに研究活動をしています。租税法を研究テーマにしているため、ゼミ生は税理士を目指す学生が多く、また、租税法に関心を持つ学生が多く集まっています。ここ数年でも、六人十二科目の税理士試験科目合格者を出しています。また、そのほかに地方公務員（税務職員等）、高等学校教員、銀行等に就職しています。さらに大学院進学者も多く出ています。

ゼミでは、主に実際にあった税務争訟を取り上げ、原告（納税者）と被告（税務署等）に分かれて判例研究をしています。原告側は、争点を絞り課税処分を取り消しを主張し、被告側は、課税処分の正当性を主張します。

この争点は租税法の原理原則である租税法主義（憲法三〇条・同八十四条）、租税平等主義（憲法第十四条）、租税公平負担の原則を基本にそれぞれ主張し議論し結論としての判決を導き出します。判例研究は原告・被告ともに説得力ある主張をしなければならぬため相当の時間をかけて勉強しなければなりません。ゼミ生は、この判例研究を通じて租税法理論を相当修得することが出来ます。

最近のゼミでは、競馬払戻金は一時所得か雑所得か、確定申告に関する錯誤の主張を取り上げ、ゼミ生が原告・被告に分かれ、それぞれ正当性を主張し、活発な議論が展開されました。同時に、学生の知識も相当レベルアップしています。

SEMINAR & SPORTS

【硬式野球部】二年連続出場権を得た市長杯（秋季神宮大会関東地区代表決定戦） 惜しくも。

硬式野球部は、リーグ戦優勝・全国大会で勝つことを目標に日々厳しい練習に取り組んでいます。

今年度は、昨年度のドラフト会議で阪神タイガースから一位指名を受けた岩貞祐太、東北楽天イーグルスから指名を受け大活躍を見せた西宮悠介の二枚看板と、社会人野球に進んだ四年生が卒業し、新メンバーでリーグ戦を戦いました。

残念ながら春・秋ともに優勝することは出来ませんでしたが、春季リーグ戦では、昨年からレギュラーとして活躍していた酒井翔平が打点賞、打率二位とベストナインを獲得。荒井聖也も同率で打率二位を獲得し、チームの中心打者として成長を見せました。

秋季リーグ戦では左腕の左澤優が、昨年の岩貞・西宮の穴を見事に埋める大活躍を見せ、最優秀投手賞を受賞し神奈川リーグを代表する投手に成長しました。

また、明治神宮大会の出場を掛けた関東地区代表決定戦、一回戦の平成国際大学戦では急成長の左澤が、ドラフト指名された相手投手以上の好投で無失点に抑え、一対〇の完封で勝利しました。

二回戦は千葉県大学野球連盟二位の城西国際大学と対戦しましたが二対七で敗れ二〇一五（平成二七）年度に課題を残す試合となりました。

○来年度に向けて○

新チームは、全日本代表候補選手にも選出された大型内野手・谷口諒と、今年度結果を残した酒井翔平・荒井聖也が打線の中軸となり、新キャプテンの大島恭平（商学科三年次）や新二年次生の飛躍が期待できます。

投手陣では実績を残した左澤に加え、佐藤健太（商学科三年次）山本翔大・庄司拓哉（いずれも商学科二年次）・渡邊佑樹（商学科一年次）とタイプの異なる左腕に、右サイドの福永智之（商学科二年次）、切れの良いスライダーを投げる右腕・小松田眞福（商学科二年次）が主力候補としてチーム内で競争力を付けています。

新入生を迎え、目標をリーグ戦の優勝ではなく、大島新キャプテンを中心に、全国大会で優勝することを真剣に考えて取り組んでいます。



成長著しい左澤 優投手（商学科2年）



2014年度の原動力となった酒井翔平選手（商学科3年写真左）と荒井聖也選手（商学科2年 同右）

難関の「税理士科目試験」3年連続で合格者

今年度、二名の科目合格者



資格取得講座受講生 芦澤さん

一昨年、昨年に引き続き、今年度十二月に実施された税理士試験で、経営情報学科二年次生の芦澤泰良さんと商学科四年次生 佐々木琢さんの二名が科目合格をしました。

まず、「簿記論」に合格した芦澤さんは本学が開講している資格取得講座の受講生で担当講師の横山先生の指導の下、平成二五年九月から翌年七月まで一〇〇回に

及ぶ講座を受講、加えて図書館での自主学習や所属しているゼミの指導教員である吉田武史准教授の支援のもと、見事平均合格率約一四%の難関試験で合格を勝ち取りました。

将来、税理士への道を目指している本人にとつて、避けては通れない試験であることも十分自覚していたこともあり、その喜びも一入のようでした。今回の合格で芦澤さん自身が、目標へのさらなる第一歩を踏み出すこととなりました。

佐々木琢さんは「簿記論」

「財務諸表論」二科目合格

一方、今春卒業を予定している佐々木さんは、前出の芦澤君同様「簿記論」合格のほか、「財務諸表論」も受験し、二科目同時合格の快挙を成し遂げました。高校卒業後単身、上京しこの四年間を過ごしてきたそうです。



独学で頑張った佐々木さん

その間、本学の日商簿記二級資格取得講座を受講し横山先生、小滝先生の指導の下、取得していましたが、将来は独立、起業も視野にしながら進路を考えていたそうです。

しかし現実的に自分自身の中で進路選択を迷う中、一念発起し税理士資格への挑戦をしました。

生憎、一人暮らしでもありアルバイトも必須のため時間的にも経済的にも、資格取得講座講座の受講までには至りませんでした。そのため独学で勉強し、かつて受講していた横山先生や小滝先生のアドバイスを受けながらこの快挙に至ったそうです。

佐々木さん曰く「試験の対策は必要ですが、問題数も多く、難しいことを考え込んでは試験突破はさらに難しくなる。

逆に基本的な部分をきっちり抑えた上で、試験対策に臨んだことが今回の合格につながりました。」とアドバイスをいただきました。

二人の合格者には本学および同窓会、育友会から税理士科目試験合格者として合わせて学納金相当の奨学金が給付されることとなっています。

最後に二人の栄誉を称えるとともに今後さらなる飛躍を期待したいと思います。

編集後記

従来から紙媒体による「横浜商科大学報」として慣れ親しんできましたが、第八五号から「WEB」掲載による形式に変更しました。

時代の流れに沿って、致し方ないことと思われる方々も多いかと思いますが、最近の流れからいえば当然と思われる方もいるかと思っています。

いわゆる世代間によって、その考え方も多種多様であることも事実です。しかし、大学としては、時代の流れと数多くの方々の要望を最大限尊重しなければならぬことも当然かも知れません。

広報委員会は、形式の変更に伴って、表示方法等体裁から割り付け、掲載内容等について、時間をかけて慎重に検討してきました。

結果的に、相当の時間を要することとなり、第八五号の発行が当初予定より大幅に遅れることとなりました。

しかしながら、寄稿いただきました先生方をはじめ関係各位の方々の尽力、ご協力により第八号が完成いたしました。

紙幅の関係から、人事異動、法人関係の情報については掲載しておりませんが、大学のホームページにおいて閲覧が可能ですので、参照いただければ幸いです。

また、善すべき諸事項については、次号に反映できるよう広報委員会において引き続き検討することとしています。

寄稿いただきました先生方をはじめ関係各位の方々のご尽力、ご協力に対して、あらためて御礼申し上げます。

平成二七年二月

横浜商科大学広報委員会

委員長	佐藤義文
委員	徳田英明
委員	村上一郎
委員	村澤裕一